

令和4年度 学校運営連絡協議会 実施報告

1 組織

(1) 都立清瀬特別支援学校 学校運営連絡協議会

(2) 事務局の構成

副校長、主幹教諭（教務主任兼務）＝事務局長 計2名

(3) 内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭（教務担当）、主幹教諭（小学部担当）、主幹教諭（中学部担当）、主幹教諭（生活指担当）、主幹教諭（相談支援・進路キャリア教育担当）、主幹教諭（情報・研修担当） 計9名

(4) 協議委員の構成（敬称略）

中西 郁 （十文字学園女子大学 教授） 評価委員長兼務

岩澤 寿美子 （清瀬市子どもの発達支援・交流センターとことこ 園長） 評価委員兼務

四王天 正邦 （横浜市教育委員会 教育委員）

水野 恵美子 （清瀬市立清瀬第三小学校長）

吉田 有子 （清瀬市立清瀬第七小学校長）

梅木 仁 （清瀬市立清瀬第三中学校長）

内田 圭一 （東京都立清瀬高等学校長）

柿添 信作 （NPO 法人 きよセラボ 代表）

能祖 早苗 （本校保護者代表） 評価委員兼務 計9名

2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日、出席者、内容、その他

第1回 令和4年6月24日（金）内部委員8名、協議委員8名

授業公開、協議委員委嘱、協議委員・評価委員紹介

学校経営計画、本校の現状と課題等説明、意見交換

第2回 令和4年10月14日（金）内部委員7名、協議委員8名

学校経営計画中間報告、協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議

第3回 令和5年1月27日（金）内部委員8名、協議委員6名

学校評価アンケート集計・分析結果報告、評価委員会からの助言・提言

次年度に向けた課題の確認

(2) 評価委員会の開催日、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和4年6月24日（金）評価委員3名、事務局2名

学校評価の基本方針の確認、今年度の学校評価の実施に向けた検討

第2回 令和4年10月14日（金）評価委員3名、事務局2名

学校評価アンケート内容の検討

第3回 令和5年1月27日（金）評価委員2名、事務局2名

学校評価アンケートの結果・分析報告と学校への助言・提言内容の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) アンケート調査の対象・規模・回収率（実施時期：11、12月）

○ 保護者アンケート 対象：245人 回収：190人 回収率：77%

○ 児童・生徒アンケート 対象：245人 回収：184人 回収率：75%

○ 教職員アンケート 対象：93人 回収：92人 回収率：98%

○ 地域住民、地域関連団体アンケート 回答数68

(2) 主な評価項目

・保護者アンケートは、前年度のものを変更して実施した。「学校全般」「学習指導・キャリア教育」「副籍・進路指導・生活指導」「進路・キャリア教育」「保健・給食」「教員の働き方改革」「安全対策」「その他取り組み」の6項目、28問（1問記述式）に整理した。また、回答を「あてはまる」「ややあてはまる」「あてはまらない」「わからない」の4件法に変更した。また、今年度の学校経営計画に基づく取り組みを確認する質問項目を取り入れ実施した。

- ・児童・生徒アンケートは、例年通りの内容で実施した。児童・生徒の実態に応じて紙面とタブレット端末を使用して回答ができるようにした。児童・生徒の障害認知特性に応じてアンケートに回答する際に、教員による支援を行った。一部挿絵などの修正を行った。

4 評価結果の概要

(1) 保護者アンケートから

- ・今年度は保護者アンケートの回収率が77%であった。過去数年間の保護者のアンケートに関しては約70%前半ぐらいの数値で推移していることもあり回収率は例年並みである。今年度はFormsを全面的に活用し、アンケートの回収に努めたが、保護者の回答率が低く、紙も併用した。
- ・27問ある質問内容につき13問は90%以上の肯定的評価であった。また、前年度に引き続き学習指導においては、高評価を受けている。
- ・保護者等が学校に入ることができない状況が続く中で、Twitterや各種通信やホームページでの情報発信を継続し続けたことが肯定的な全体的評価につながった。
- ・ホームページの活用については今後も検討を行い、計画的に情報発信について取り組み、ホームページの活用に取り組んでいく。
- ・「ICT機器やタブレット端末を活用した授業実践を受けられていますか」「外部専門員を日々の指導に活用し、授業改善や教材の充実を図られていますか」「学校生活全般の教育活動においてキャリア教育の視点を入れた指導が行われているか」等の授業実践については情報発信に課題が見られた。
- ・地域におけるセンター校として、地域の関係機関に向けた相談、研修等を実施した。副籍交流については、新型コロナウイルス感染症の影響で直接交流があまり実施できなかった。次年度は、コロナ禍の状況も改善等もあり、交流も徐々に可能になることも考え、特別支援教育のセンター的機能が発揮されていく必要がある。
- ・次年度は、より回収率が上がるように質問事項の見直しを行い、回答しやすいアンケートの作成及び実施に取り組んでいくようにする。

(2) 児童・生徒アンケートから

- ・「好きな授業」であがった上位の教科は、昨年度は実技が主の「保健体育」、「音楽」、「英語」の教科を好む傾向にあったが、今年度は「国語・算数」も加わった。様々な学び方の手段が増えたことも推察することができる。
- ・「がっこうはたのしいですか」の回答は昨年度より8%下がった。特に、中学部生徒の回答が下がり、新型コロナウイルスが児童・生徒の内面に与えた影響が引き続き垣間見えた。学校行事が中止することが今年度はなかったが、宿泊行事が日帰り行事になったことなどが影響したと見られる。
- ・休日の過ごし方はデイサービス利用、テレビ、ゲームと続いた。休日は、家族と過ごすことが一番多い回答であり、引き続き余暇活動については、過ごし方を自ら選んで計画できるよう、日々の教育活動を通して家庭との連携を図りながら進める必要がある。

(3) 地域住民・地域関連団体アンケート結果から

- ・自由記述からは、小学校の授業で交流し、同じ地域の子どもたち同士、そして大人も、もっとラブに関わり合える機会が沢山あったらいいという意見もあった。また、子供たちは「学校疲れた～」や「今日学校で～したよ!」、「今日学校楽しかった!」等いつも生き生きと活動報告をしてくれます。それくらい、先生方がいつも丁寧に子供たちと触れ合ってくださっているのだなあ、といつも感動しています!という放課後等デイサービスの回答もあった。
- ・都立清瀬特別支援学校の高等部が廃止され、高等部が東久留米特別支援学校として、開校して2年目になった。令和5年度の9月からは校舎の移転もある。引き続き、地域とのつながりをもちながら取り組んでいくことが大切である。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した次年度に向けた取り組み

- (1) 外部専門員の指導・助言等の根拠に基づいた児童・生徒の実態に応じた指導内容・方法の充実
- (2) 安全・安心な学校づくりの徹底（移転もあり環境も変わることから、スクールバスの運営・登下校・けが・遊出・感染症・医療的ケア等）
- (3) 教育活動全般におけるキャリア教育の充実（キャリア教育の視点導入・地域資源の活用）
- (4) ICT機器を活用した授業実践の更なる充実
- (5) 中学部における作業学習の位置づけや学習方法の充実
- (6) 児童・生徒の成長と将来の自立と社会参加につながる行事の実施
- (7) 児童・生徒、保護者に対して適切な進路指導や情報提供（進路・研修・副籍）
- (8) センターの機能の継続（幼・小・中・高・特との連携、地域の特別支援教育の充実）

6 職員連絡会及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員連絡会 1回 延べ1人（令和5年2月15日職員連絡会）

【成果】 学校運営連絡協議会委員長より、本校への提言をいただいた。今年度の評価と次年度に向けた課題をいただき、教職員の課題が明らかになるとともに、教職員の意識を高めることができた。

以上